

しまねの土地改良だより



2015年(平成27年)
12月1日発行(第57号)
水土里ネット島根

■ 平成27年度換地計画実務研修会、換地委員等実務研修会を開催

11月24日、25日の2日間にわたり、ほ場整備継続地区および新規地区の換地委員をはじめ県・市町村の職員、土地改良区の役職員を対象に、平成27年度換地計画実務研修会・換地委員等実務研修会を土地改良会館にて開催しました。本年度は昨年を上回る総勢64名の参加がありました。



研修会は初日の本会長崎専務理事の開会挨拶に始まり、中国四国農政局土地改良管理課、松江地方法務局登記部門、島根県農林水産部農村整備課・農業経営課、しまね農業振興公社農業振興課および

日本政策金融公庫松江支店の各担当者を講師として迎え、土地改良法はじめ幅広い分野に亘る講義がありました。また、本会の担当者2名が講師となり、換地の実務について詳しい説明をしました。

昨今、国が全面に打ち出した「攻めの農業」には欠くことの出来ない農地の基盤整備事業は先般のTPP大筋合意と相まって、今後、ますます要望の聲が大きくなるものと予想される所です。このため、現在の事業継続地区や今後の新規地区の換地業務の円滑な実施にそなえた換地技術者の技術力向上と新たな換地技術者の育成は喫緊の課題となっています。また、農地集積の中心施策である農地中間管理事業の開始による換地業務における複雑な権利調整、また多くの分野に亘る換地事務を行うため地元換地委員を中心に換地技術者への期待はさらの高まるものと考えられます。

本会では、今後も本研修会が、換地業務を円滑に実施するためのよりよい情報提供の場となり、換地業務に携わって頂いている方の理解が深まるよう努めていきたいと考えます。

なお、換地業務について、ご質問等がありましたら換地担当又は農地集積担当までご連絡ください。

【研修会概要】

1日目	2日目
①換地業務の流れ	①農業基盤整備詩人関係の事務手続き
②改正農地法に基づく遊休農地に関する措置の概要	②分筆登記の留意事項、相続概説
③農地中間管理事業について	③換地計画書の作成(実習)
④土地改良法、換地理論	
⑤農地集団化の概要について	
⑥基礎調査、換地設計基準	

■ 平成27年度換地計画実務研修会、換地委員等実務研修会を開催	1
■ 災害復旧事業補助率増高申請システム共同利用連絡会議の委員会を開催	2
■ 平成27年度島根県小水力等発電導入技術力向上地方研修	2
■ 2015ため池フォーラム in いしかわ	3
■ 疎水フォーラム in 高梁川流域2015	3
■ たんぼの学校「棚田祭り&収穫祭」	4
■ 今月の予定	4

■ 災害復旧事業補助率増高申請システム共同利用連絡会議の委員会を開催

11月19日（木）、「農地・農業用施設災害復旧事業補助率増高申請システム共同利用連絡会議」の委員会が広島市で開催され、新たに作成する補助率増高申請システムの最終確認と今後の共同利用について協議しました。

農地・農業用施設災害復旧事業の補助率は、農地災50%、農業用施設災65%を基本としますが、市町村は補助率増高申請によって補助率の嵩上げを行うことができます。市町村の農業の維持存続及び農業振興にとって必須の申請事務ですが、短期間で行う煩雑な作業となるため、作業の効率化を図るためのシステム化が必要となります。

島根県土連では、昭和63年災より補助率増高申請システムを使用した増高申請業務を受託していますが、正確で迅速な業務として県・市町村からの評価は高く、信頼されています。

本年度、増高申請業務に関心の高い中国四国農政局管内の5県土連（※）を会員とする「農地・農業用施設災害復旧事業補助率増高申請システム共同利用連絡会議」を設立し、新たな補助率増高申請システムの共同開発と共同利用、県土連相互の情報交換など、委員会での協議を重ねています。今後、新たに作成している補助率増高申請システムは、本年災の試行運用を経たうえ、平成28年災からの本格運用の予定です。委員会の最後に、会員相互の情報交換と業務連携を確認して閉会しました。

（※）協同利用連絡会議会員県土連：島根県、広島県、山口県、愛媛県、高知県



■ 平成27年度 島根県小水力等発電導入技術力向上地方研修の開催

＝島根県農村地域再生可能エネルギー推進協議会＝

11月16日、17日の2日間に渡り、平成27年度島根県小水力等発電導入技術力向上地方研修が開催されました。

初日は、島根県土地改良会館大会議室において、「再生可能エネルギー導入推進及び全国状況について」と題し全国土地改良事業団体連合会杉山主任研究員より、再生可能エネルギー発電の現状、課題および全国での取り組み事例の説明がありました。続いて、農業土木技術者にとって勉強する機会の少ない電気の基礎知識について、中国四国農政局土地改良技術事務所三原係長から、電気の正体からはじまり、電気図面の見方、小水力発電の原理までの分かりやすい講義がありました。最後に、「小水力発電水車事例」として、大晃機械工業株式会社宮澤部長及び浦里サブリーダーから、山口県で実施されたポンプ逆転水車、また、超小型発電水車「ピコルくん」について、実物を展示しての説明がありました。



船上山発電所での現地研修

2日目は、先進地である鳥取県において「船上山発電所」「南谷小水力発電所」「大鳥居太陽光発電所」の3箇所で現地研修を行いました。「船上山発電所」においては、琴浦町役場足立農林水産課長補佐より説明があり、「南谷小水力発電所」「大鳥居太陽光発電所」では、天神野土地改良区杉原理事長より、地形的な特徴や事業の流れ、現在の発電状況等について詳細な説明がありました。

■ 2015ため池フォーラム in いしかわ

里山を支える ため池の保全 ～地域の宝を永遠に～

＝2015ため池フォーラム in いしかわ実行委員会＝

日本国内の約5割を占める里山を支えているため池の現状や管理・利活用の取り組みを通じて、地域の宝と言うべきため池の役割を再認識するとともに、古から次世代へ継承する重要性について全国へ情報発信することを目的に「2015ため池フォーラム in いしかわ」が11月12日、石川県七尾市、和倉温泉観光会館にて開催されました。

このため池フォーラムは毎年各県持ち回りで開催されているもので、今年度は石川県、七尾市、水土里ネットいしかわの主催により開催され、関係者約600名が参加しました。

本会議はなつめ左登志実行委員長（石川県農林水産部長）の開会宣言に始まり、竹中博康副知事が開催県を代表して挨拶をされ、その後、当フォーラムを後援する農林水産省から東真生防災課長、全国水土里ネットからは中條専務理事が来賓として挨拶をされました。



続いて、中村浩二金沢大学特任教授から『世界農業遺産と里山里海～能登の再活性化を目指して～』をテーマに基調講演があり、その後、上田哲行石川県立大学名誉教授からは『ビオトープとしてのため池の再利用』と題して研究報告がありました。上田名誉教授は「近年農家人口の減少による耕作放棄地の増大や水田灌漑システムの変化などから使用されなくなったため池が増加しつつある中で、多面的機能を有するため池の利活用を図ることが重要であり、その手法として使わなくなったため池を低水管理して生物の生息空間や住民の親水空間としての提供等も考えられる。また、ため池を自然に返す（維持管理の放棄）ことも今後は選択肢として検討する必要がある」と述べられました。このほか、金蔵集落都市農村交流推進協議会の石崎英純代表から農村集落の活性化への取り組みについての報告がありました。

翌13日には現地見学会があり、前日の本会議で地域の取り組みの報告があった金蔵集落（ため池群）などを約120名が視察しました。

■ 疎水フォーラム in 高梁川流域2015

＝高梁川用水土地改良区、高梁川東西用水組合、全国土地改良事業団体連合会、疎水ネットワーク＝

11月10日、「疎水フォーラム in 高梁川流域2015～魂の故郷、高梁川の恵み再発見～」が岡山県倉敷市、倉敷文芸館で約400名の参加者を得て開催されました。

疎水は地域住民の憩いと安らぎの場となるなどさまざまな多面的機能を発揮しており、このような疎水の機能を広く国民に周知し、疎水が将来に引き継がれていくよう情報交換、情報発信等を行うことを目的に開催されたものです。

本会議は、水土里ネット高梁川用水矢野秀典理事長の開会宣言に続き、疎水ネットワーク伊東香織会長が挨拶され、参加者を歓迎しました。その後、前田建設工業（株）常務理事勝山達郎氏が「疎水が織り成す地域共創の未来」と題し基調講演を行い、「地域には多種多様なリーダーが必要になってくるとともに、疎水という資源を活用し、文化や伝統を取り入れ、新たな価値を創造していくことが大切になってくる」と述べられました。

翌11日には、現地研修が行われ、高梁川東西用水と備南地区の畑地かんがい施設を視察しました。

■ たんぼの学校「棚田祭り&収穫祭」開催 =山王寺本郷棚田実行委員会=

11月2日（日）、雲南市大東町山王寺の棚田において『たんぼの学校 棚田祭り&収穫祭』が開催されました。この「たんぼの学校」は今年で10年目を迎え、記念すべき当日は秋空に恵まれ、市内外から大勢の家族連れが訪れました。棚田祭りでは、新米のおにぎりや具たくさんの豚汁を食べながら神楽を鑑賞したり、新鮮野菜の買い物をするなど大変賑わっていました。



水土里ネット島根では、山王寺で収穫したさつま芋とマコモダケを菜種油を使って天ぷらにして、来場者に食べていただきました。

特にマコモダケの天ぷらは珍しいようで、あつあつの天ぷらはあつと言う間になくなるほど大変好評でした。午後から行われた収穫祭ではさつま芋の収穫を行い、子供たちは泥んこになりながらも一生懸命掘ったり、芋を引っ張っていました。大小様々でしたがたくさんのさつま芋が収穫でき、最後に参加者全員で記念撮影を行い今年度のたんぼの学校を閉校しました。

来年度のたんぼの学校もたくさんの方のご参加をお待ちしています。

■ 今月の主な予定

開催日	内 容	開催地
12月 1日 (火)	平成27年度農林漁業団体同和対策推進担当者等啓発研修会	出雲市
12月 8日 (火)	”	松江市
12月14日 (月) ～15日 (火)	平成27年度農業土木技術研修 平成27年度農業土木専門研修	県土連
12月21日 (月)	多面的機能支払事務研修会	益田市
12月22日 (火)	”	大田市
12月24日 (木)	”	松江市
12月24日 (木)	”	雲南市



水土里ネット島根 (島根県土地改良事業団体連合会)

〒690-0876 島根県松江市黒田町432-1 島根県土地改良会館 TEL 0852-32-4141
ホームページ<http://www.shimanedoren.or.jp/> メールsmndoren@shimanedoren.or.jp